

「お坊さんからの手紙」七通 日平成二十五年九月

夏のお盆が過ぎたと思ったりもするけれど、秋のお彼岸です。季多郎の巡りがとても早く感じます。お彼岸は、春と秋の年二回あります。春は春分の日とはさんで前後二日間を合わせた一週間、秋は秋分の日とはさんで前後二日間を合わせた一週間です。

お彼岸は修行期間

煩惱と迷いの世界と此岸(しかん)とを言い、煩惱と迷いが消えまった世界を彼岸と言います。この彼岸へと向かっていくために、特に修行をする期間がお彼岸の一週間です。修行と言っても、お坊さんが行うような修行をする訳ではなく、普段より思いやりの心をもって生活としていこうというものです。つまりお彼岸は、普段の生活の中、どゆがちな人間としての生まかたを意識して生活する期間です。

昔から、お彼岸の期間は、小さな行いが大きな結果と報いを生じる特別な期間であるから悪い行いは止め、善い行いを心がけて行うようにと云われまいしました。

日本人の感性

また、私たち日本人は、大きな意味で、先祖さまのいる世界を彼岸と受け止めました。この中で、お彼岸の期間は、先祖さまに思いつくはせ、お墓参りなどとして供養を捧げる期間ともなります。私はお彼岸もお盆と同様に、「先祖さまとの繋がりを感じ、先祖さまに感謝を伝える日」と考えたいと思います。

日本に仏教が伝わる前から、日本人は、先祖さまと大切に生きてきました。これは、もともと日本人に自然と備わっていた感性なのだと思います。十日後より、日本人がもっていた宗教心なのだ。だからこそ、私はこの感性・宗教心と呼び賞ましたいと願っております。

自宅にお仏壇があるお家もたくさんあると思います。仕事などの墓参りに行ける方も多くいらっしゃいます。しかし、たとえ仕事で忙しくても、お墓参りに行く余裕がなくても、先祖さまに代わって、「いつもありがたうございませう」という言葉を合らせる機会ももっていただけなら、なご思っています。

子孫のいない人は、これも先祖のいない人は、いけません。今の自分は、必ず、先祖さまと繋がっています。お彼岸が、その時に思いつくはせ、機会を、いつも願っています。

おとめ



お彼岸は、いつも以上に思いやりをもって行動を心がけ、先祖さまとの繋がりを感ずる心と音とを大切に期間です。お彼岸の期間が、お盆より長いのは、その心遣いが、たくさんあるから、もしかたありませんね。

